

施設野菜においてタバココナジラミ類の発生が目立ちます。今後の発生に注意してください。

[現在の状況]

- ① 8月下旬現在、施設野菜の抑制栽培におけるタバココナジラミ類の発生は、トマトで平年並からやや多く、キュウリでやや多い、ピーマンで多い発生である（表1）。
- ② タバココナジラミ類は、野外でも繁殖しており、現在発生が見られなくても、今後ハウス内への飛び込みが懸念される。
- ③ タバココナジラミ類は、30℃で最も発育が速い。温度が高かった8月に比べ、今後気温の低下とともに、ハウス内は発生を助長する温度条件となりやすい。

表1 各作物におけるタバココナジラミ類（幼虫・蛹）の発生状況（8月下旬調査）

作物名	寄生葉率 (%)			発生地点率 (%)		
	本年 [順位] 注1)	昨年	平年注2)	本年 [順位] 注1)	昨年	平年注2)
トマト	3.4 [4]	16.8	4.3	40 [3]	78	17
キュウリ	0.3 [2]	0.0	0.0	11 [2]	0	2
ピーマン	4.1 [1]	1.3	0.8	78 [1]	56	45

注1) トマト、キュウリは過去11年間で、ピーマンは過去3年間中の順位を表す。

注2) トマト、キュウリは過去10年間、ピーマンは過去2年間の平均値を表す。

[防除対策]

- ① ハウスの開口部に防虫ネット（0.4mm目合い）を設置し、タバココナジラミ類のハウス内への侵入を防止する。なお防虫ネットを設置した場合、通気性が低下し病害の発生が助長されたり、ハウス内の温度が高くなることが予想されるので、ダクト通風やサイドの開閉、遮光資材の利用等、温湿度管理には十分注意する。
- ② タバココナジラミ類は多発すると防除が困難となるので、初期防除に努める。なお、黄色粘着板を利用し、発生動向を確認して防除を行うと効果的である。
- ③ タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。なお近年、一部の薬剤に対して感受性が低下しているバイオタイプQの発生が確認されている。バイオタイプQに対し、効果のあるとされる薬剤は表2、表3のとおりである。
- ④ 雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
- ⑤ タバココナジラミ類は、すす症状や果実の着色異常を引き起こすので注意する。特にトマトでは、トマト黄化葉巻病を媒介するので防除を徹底する。

表2 タバココナジラミ類に対して有効とされる主な薬剤（平成19年8月22日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類 に対する登録の有無		
		トマト	キュウリ	ピーマン
ベストガード水溶剤	ニテンピラム	○	○	
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	○	○	
スタークル顆粒水溶剤		○	○	
サンマイトフロアブル	ピリダベン	○	○	○
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	○	○	

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。

※ベストガード水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は同一系統薬剤なので連用はさけ、他系統の薬剤と組み合わせて散布して下さい。

表3 タバココナジラミ類に対して有効とされる主な生物農薬または物理的な作用による薬剤

（平成19年8月22日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類 に対する登録の有無		
		トマト	キュウリ	ピーマン
ボタニガードES	ボーベリア バシアーナ	○	○	○
オレート液剤	オレイン酸ナトリウム	○		
粘着くん液剤	ヒドロキシプロピルデンブン	○		

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。